

台湾交換留学 報告書 # 1

留学期間 2015/05/9 ~ 5/31

留学先病院

1 週目 : Shin Kong Wu Ho-Su Memorial Hospital

2 週目 : Cardinal Tien Hospital

3 週目 : Cathay General Hospital

なぜ私がこの台湾交換留学に応募したのか

私は、台湾で生まれて、1歳の時に親の仕事の関係で日本に来ました。その後、日本と台湾を行き来して、台湾には小学1年生～4年生の4年間しか住んでいませんでした。その4年間で中国語に関しては日常生活に支障がない程度はできるようになりましたが、昨年5年生になり、病棟や外来を見学していると、中国人も病院に来ることもあり、その際どのように中国語で病状を説明するか、その中でも医療中国語を全く知らなかったのもそれだと病状説明、手術説明がうまくいかないと思いました。今回このような交換留学があると聞いて自分の中国語のスキルの向上と、医療中国語の習得、なおかつ私の母国であるということもあったので参加しました。

今回台湾に行く前にどのような準備をしたのか

以前台湾から佐賀に交換留学してきた輔仁大学の人と台湾での医学生の勉強や医療環境について話したことがあったので、大体台湾の医療事情や医学生の勉強などを知っていました。その中でも、台湾は中国語の教科書はあるが、翻訳がよくないので、先生方や学生は英語の教科書で勉強、授業を行っていると言っていました。そのため、医療英語や基本的な英語を勉強しておく必要があると思いました。私は、医療英語を勉強する上で、アメリカの USLME の教科書を買って、それを読んだり、また問題を解いたりして、医療英語に少し馴染もうとしました。それ以外の勉強の準備は特にしていませんでしたが、私の中では今まで5年生で回った実習の総仕上げのつもりで行きました。

実際現場ではどうだったか

1 週目では Shin Kong Wu Ho-Su Memorial Hospital の救急で実習を行いました。台湾に行く前から台湾の救急はとても疲弊していると聞いていたのですが、実際見てみると聞いていた以上だったのでびっくりしました。一日に 300 人救急に人が来るようです。そのため、救急のロビーでは入りきらず、廊下まで救急の患者が並んでいました。理由を聞いてみると 3 点あって、1 点目は、患者が原因です。台湾の患者は小さな風邪でも普通の診療科だと時間がかかるから、また、救急部の方が採血データなど早く出るからといった人が非常に多くいました。2 点目は制度の問題です。台湾では、患者は自由診療制度で軽いけが

で救急車に乗ったら、日本だったら1次救急、2次救急の病院に運ばれると思いますが、台湾では、患者さんがよりいい病院を求めるので、3次救急の病院を指定してしまう、さらに3次病院は受け入れを拒んではいけないという法律（日本の東京で妊婦さんのたらい回しがあつたことで制定されたらしい？）があるため、患者は増えるばかりと言っていました。3点目は、中小病院がとても少ないということもあり、必然的に患者が集まってくると言っていました。

その中で、私は救急の現場を体験しつつ、同時に中国語の問診や病状説明をたくさん聞きましたので、かなり勉強になりましたが、先生はとても忙しく学生を教える時間がありませんでした。それでも、朝は救急の勉強会、夕方にも勉強会がありましたので、それとても勉強になりました。その勉強会では、台湾の医療法について、さらには救急疾患の勉強をすることができました。法律の勉強会は実際弁護士の方を呼んでの講義でしたので、内容のほとんどが中国語でした。そのほかの勉強会は、スライドはほぼ英語で、話している内容は中国語でした。しかし、その中でも症状や疾患は英語で話すので、医療英語はとても大事であることが分かりました。また先生方は日本の救急体制をかなり気にしておられて、わかる範囲で答えましたが、先生方は日本の救急体制は素晴らしいとおっしゃっていました。

2週目では **Cardinal Tien Hospital** のホスピスと東洋医学、神経内科を実習しに行きました。ホスピスでは講義が中心で、それが医師ではなく看護師やMSWの方が中国語で講義をしているので、実際私が日本語に訳しながら、講義を聞くような形式でした。そのため、私自身とてもきつかったのですが、聞いているもう一人もとてもきつそうでした。台湾のホスピスは日本に比べるととても進んでいて、保障もしっかりしており、今まで癌だけの適応のものが、現在では8大疾患（心疾患、肺疾患、腎疾患、脳血管疾患など）まで適応が拡大しており、とても充実していると感じました。しかし、その反面で、医療費などが莫大になっているという悪い面もあるようです。

東洋医学では、ツボについての講義や鍼灸、漢方についての講義があり、とても興味深かったです。将来東洋医学も機会があれば勉強してみたいと思いました。台湾では漢方の処方、鍼灸は医師ができないため、漢医しか東洋医学ができないとのことでした。神経内科ではトゥレット症候群の評価方法について、論文を調べてそれを教授に発表する形式で、私は初めて論文を中国語で発表して、そのような経験ができてとてもよかったです。

3週目では **Cathay General Hospital** で循環器内科を実習しました。朝は全科や内科のみのミーティングなどがあり、そこでは台湾の法律、内科の症例提示、勉強会などがありました。循環器内科では心エコーの実習、心電図の読解の講義、WPW症候群のカテーテルアブレーションや心臓カテーテルの見学、担当患者さんの症例発表があつてとても勉強になりました。台湾の循環器内科は日本の循環器内科と比べると特に変わらず、どちらも忙しそうでした。ここでは、実際の症例発表や5年生で回った循環器内科の復習ができてよか

ったです。

今回の台湾交換留学の成果

今回3週間台湾に行って、3点学んだことがありました。

1点目は、私は中国語の問診、治療、手術説明を外来の見学や実際に処置している現場から学ぶことができたと思います。今回実際見て学んだ診療技術は非常に有用で、今後の日常診療で中国人が来た場合それに対応できるようになれたと思います。

2点目は台湾の実際の現場を見て、日本と台湾の医療の違い、同年代の医学生の違いを実感することができました。実際台湾では、医師は何かあった場合患者さんからすぐに訴えられるため、医師が勉強会を開いて、どのようにしたら訴えられないか、訴えられても非はないような診療をするか、また、弁護士を呼んで医療法や医療制度を非常に多く学んでいた印象がありました。それに比べると日本ではそのようなことを気にせず診療ができることは非常にいいところだなと思いました。実際、台湾留学中に産婦人科や救急の先生が訴えられていると新聞沙汰になっていて、やっぱりそうなのかと思って少し残念でした。また、医学生も自分の国の保険制度や法律をととてもよく勉強していて、台湾の学生から日本と台湾の医療の違いに関して聞かれることが多く、日本の医療制度を勉強しなければならぬと思いました。また、台湾の学生は、日ごろから英語で勉強しているのもあり、将来日本やヨーロッパ、アメリカなどの外国で診療がしたい人が多くてとてもびっくりしました。

3点目は、医療英語の大事さを改めて実感したことでした。今回診療を見てみると、問診等は中国語でやっていたのですが、カルテや紹介状などはほぼ英語で書いていました。また、学生も何かを調べるときは、海外の英語論文を探して読んでいたので、そこは見習わないといけないと思いました。今回行く前に医療英語を勉強していったのですが、やはり全然足りてなかったと思いました。なので、今後は日常から医療英語を使う習慣をつけていきたいと思いました。

最後に

今回台湾留学を経て、学んだ内容を今後に生かしたいと思います。また周りの友達、後輩にもっと海外に出て、自分の無知さや英語の大切さを実感してほしいと思いました。

最後に、台湾でお世話になった現地の学生や医師、さらに今回の留学で、日本でお世話になった先生方や奨学金を出してもらいました佐賀県の関係者の皆様に感謝したいです。私は卒業後の研修を佐賀でやりたいと思っており、今回の留学は今後の診療や私自身のスキルアップに非常にためになりました。また、このプログラムが今後も継続して、後輩たちが自分たちのスキルアップ等ができるようないい機会を提供できる場であることを期待しています。

本当にありがとうございました。

輔仁カトリック大学臨床実習報告書 # 2

5/9 土、5/10 日

福岡空港で同級生、先生方と合流し、台湾桃園空港へ出発しました。到着後、台湾桃園空港で4万円ほど換金しました。今年度佐賀に留学予定の輔仁大学の学生が空港に迎えに来てくれており、大型タクシーで最初の寮に移動しました。夜に輔仁大学の学長、先生方(2人)、学生(4人)が Welcome Party を開いてくださり、学長からMR Tのカードを頂きました。このカードは台湾滞在中とても役に立ち、大変有難かったです。

日曜日は台湾の友人と合流し、観光に行きました。

1 週目(5/11 月～5/15 金)：新光呉火獅記念醫院 Shin Kong Wu Ho-Su Memorial Hospital

【実習・病院】

・神経内科で実習をさせていただきました。新光病院の神経内科は重症筋無力症(MG)の治療で有名ということで、私が実習をした週は入院患者の半分程度が MG の方で、MG に対して血漿交換療法がほぼ毎日行われていました。神経内科全体で4~5個のチームに分かれており、その中の1つのチームに加わって、毎日回診や診察に参加させていただきました。7年生の学生1人が私の担当として通訳などのお世話をしてくださり、大変助かりました。

・毎日の流れは、朝7:30から早朝ミーティングがあり(一部参加しなくても良い)、その後回診と診察、10時頃から個別レクチャー、昼食後14時頃からケースカンファ、17時頃帰宅といった感じでした。

・朝が早くカンファも多くて少し大変でしたが、先生方はとても教育熱心で、特に毎日個別レクチャーをしてくださった先生は、お忙しい中、1~2時間程度様々なテーマに沿って神経診察→診断の仕方を詳しく教えて下さったので非常に勉強になりました。その他にも画像を見てまず解剖や病変の指摘をするのは私の役目でしたので、日本での実習と比べると、より参加できる形で学ぶことができよかったです。

・新光病院は台湾でデパートや銀行を所有する大きなグループが所有する総合病院で、院内はとても綺麗でした。毎朝名札を持参すれば50NT\$の範囲内で、無料で朝食が食べられました。

・ロッカーは地下にあり、そこに荷物を置きました。

・台湾には慢性期の患者をケアする病棟が足りていないということで、脳卒中後の安定した患者を転院させられない現状があるということでした。実際に病棟内には慢性期の安定した方がたくさんいらして驚きでした。



<Shin Kong Wu Ho-Su Memorial Hospital>



<血漿交換の部屋>



<個別レクチャーの様子>

【生活】

・寮は4人部屋で2段ベッドが2つあり、私は2人のフィンランド人のルームメイトがいました。2人は看護科の学生で、とても面白く優しい人達で、台湾で欧米人とも友達になることができたのでよかったです。屋上に洗濯機(NT\$20)、乾燥機(NT\$10)があり、ドライヤーも貸してもらえました。

- ・Wi-Fiは病院と寮で、無料で使用できました。
- ・毎日台湾の学生が昼・夜とご飯に連れて行ってくれました。台湾最大の夜市である士林夜市から徒歩5分程度の位置に寮があり、MRTの駅も近かったので、とても便利で楽しかったです。



<寮の様子>

5/16 土、5/17 日

- ・Prof.Yipの5/16土のTeaching Lectureに呼んでいただいたので、5/15金のうちに次の病院の寮に移動しました。台湾の学生が自家用車で迎えに来てくれました。
- ・Teaching Lectureは、実際の患者相手に30分以内で問診・一般診察・神経診察を行うというもので、神経内科専門医を取るために必要なものということでした。私が伺った際は、レジデントの先生が実際に問診・診察を行うのを見学でき、その後その患者の疾患に関して次回議論ができるようにProf.Yipから宿題を出されました。
- ・5/17日は台湾の学生と淡水にMRTで遊びに行きました。湖沿いをゆっくり歩いたり、美味しい料理を楽しんだりすることができ、リラックスできました。

2週目(5/18月～5/22金)：耕莘醫院 Cardinal Tien Hospital

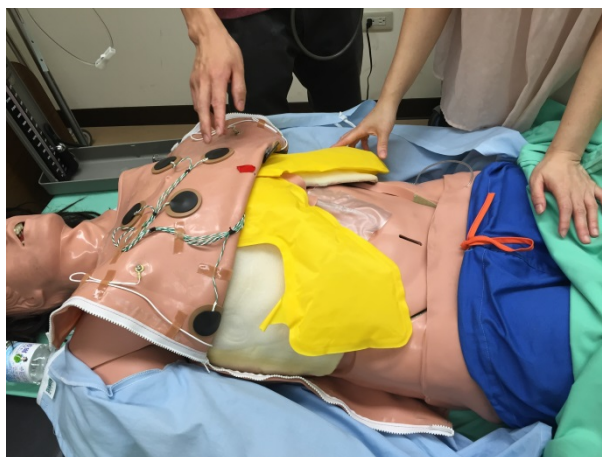
【実習・病院】

・5/18月は1日中ホスピス病棟で実習をしました。午前はホスピスケアに関するビデオを見て、午後はソーシャルワーカーや看護師からレクチャーを受けて17時頃終わりました。台湾ではホ

スピス病棟の対象疾患が COPD、慢性腎臓病、肝硬変、慢性心不全など日本より非常に広いということでした。1 日中、台湾語でのレクチャーであり、お世話をしてくださった看護師の方々も英語がわからないようでしたので、少し大変でした。

・5/19 火は、午前には高圧酸素療法の見学、午後にはホスピス病棟でレクチャーがありました。午前の高圧酸素療法の見学では、先生が英語で高圧酸素療法のメカニズムと対象疾患について説明をしてくださり非常に勉強になりました。午後は月曜日と同様に台湾語でレクチャーでしたので理解するのが大変でした。

・5/20 水は、輔仁大学の見学に行きました。輔仁大学までは医学部の学生が車で送ってくれました。輔仁大学の日本語学科の学生 2 人が大学の正門の辺りまで迎えに来てくれ、午前には大学内の様々な施設の見学をしました。昼食は、Prof.Lee が連れて行ってくださり、昼食後は輔仁大学医学部のカリキュラムや施設に関して説明をしてくださりました。ここで、同席されていた Prof.Yip から佐賀大学医学部に関して英語で説明してほしいとお願いされとても緊張しましたが、佐賀大学のことを知っていただく良い機会となったかと思えます。その後は解剖施設と OSCE 施設の見学に伺いました。台湾の OSCE は 12 個の部屋に分かれていて、設備も非常に整っており、台湾の OSCE レベルの高さを実感しました。



<1 体 1000 万円の OSCE 人形>
※眼球運動、呼吸音・心音変化
脈拍触知などが可能

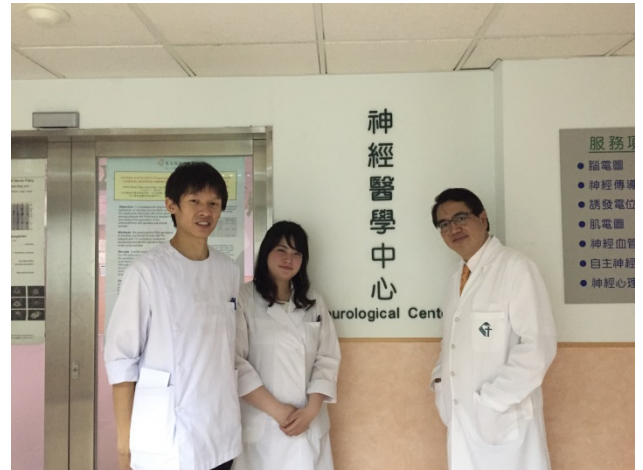
・5/21 木は、午前にはホスピス病棟の回診と、午後には東洋医学のレクチャーがありました。午前にはまず、ホスピス病棟の先生が“ホスピス病棟における倫理的ジレンマ”と題してレクチャーをしてくださり、その後回診に参加させていただきました。ホスピス病棟にいる患者だけでなく、一般病棟に入院している末期患者とも接する機会をいただき、根治治療から緩和医療へ移行する際の難しさを実感できました。午後は、東洋医学における身体構造の考え方や漢方についてレクチャーを受け、実際に鍼灸治療を行っているところを見学でき、面白かったです。

・5/22 金は、午前には内分泌内科の外来見学、午後には Prof.Yip の前でのプレゼンと OSCE をしました。午前の外来では、大半が糖尿病の患者で、先生が糖尿病治療薬の処方の仕方について詳しく教えてくださいました。薬の種類だけでなく Dose なども質問してくださり、実臨床に則した内容を学ぶことができたのでよかったです。午後は 5/16 土に出された宿題に関して Prof.Yip の前で、英語でプレゼンをしました。英語でのプレゼンは人生で初めてで非常に緊張しましたが、なかなか日本では得られない機会でしたので経験できてよかったです。その後、日本語がお話できる患者に会い、実際に問診と身体診察を 10~15 分で行いました。こちらも非常に緊張しましたが、終了後 Prof.Yip から、台湾の同じ学年の学生よりしっかりできて

いたと褒めてくださったので嬉しかったです。ただ、私が得られなかった神経診察での異常を、Prof.Yip が診察で示してくださり、自分の未熟さを痛感しました。本当に緊張しましたが、日本で習わなかった異常が出しやすい診察の方法を教えてください、私が行った問診の問題点も詳しく指摘して下さいたりして、とても学ぶことの多い時間でした。



<午前に来客を見学した Dr.Pei と>



<午後の OSCE 後に Prof.Yip と>

【生活】

- ・寮は4人部屋で2段ベッドが2つありました。私は台湾の学生1人が一緒でした。建物は精神科病棟と同じで、私の部屋は2階でしたが、階段にゴキブリがたくさんいたり、シャワーとトイレに仕切りがなかったりして、1週目よりは快適とは言えない状況でした。洗濯機はNT\$20、乾燥機はNT\$10でした。
- ・WiFiは病院内で使えましたが、寮では使えませんでした。
- ・朝食は日本人学生と近くに食べに行きました。台湾の学生と実習をしているわけではなかったので、昼食は台湾の学生と食べたり、日本人だけで食べたりしました。
- ・実習は毎日17時近くまでありましたが、その後台湾の学生が観光に連れて行ってくれました。耕莘醫院は新北市にあり、台北市に比べるとやや田舎でしたが、烏来という観光地に行くことができたり、近くの川にボートを漕ぎに行くことができたりして楽しかったです。



<寮の様子>

5/23 土、5/24 日

- ・5/22 金のうちに、次の病院の宿泊地へ移動しました。台湾の学生がタクシーで迎えに来てくれ、1時間程度で着きました。
- ・土は近場で買い物に行き、日曜は十份へ観光に行きました。

3 週目(5/25 月～5/29 金)： 国泰綜合醫院 Cathay General Hospital

【実習・病院】

・感染症で実習をさせていただきました。副病院長である Dr.Huang に台湾の学生 3 人と一緒について、毎日 9 時～18 時頃まで実習がありました。基本的には各科から来るコンサルトに対して Dr.Huang が病棟を訪問し診察されていくのについていく形でした。月曜と金曜には Teaching Lecture が 1～2 時間程度あり、実際の症例に対して鑑別診断をあげたり、治療方針を考えたりしました。先生方は英語が流暢で、まず学生に質問が来るので大変でしたが、今まで学んできた知識を実臨床で生かせるものに変えていくプロセスを学べてよかったです。また抗菌薬の使い方やその Doseなどを教えていただき勉強になりました。

・患者は高齢者が多く、尿路感染症や肺炎の方がほとんどでした。病棟訪問している際に呼吸器管理されている長期入院患者がおり、病院内の Respiratory Care Ward(RCW)へ転科し管理するということでした。呼吸器管理となった慢性期の患者をケアする施設が足りておらず、慢性期の患者が大きな病院に長期入院する形となり、台湾の医療費を圧迫している現状があるということを教えていただきました。

・5/27 水と 5/29 金の午後には外来を見学させていただきました。患者は HIV やインフルエンザ、オウム病、梅毒など様々でしたが、日本では一般のクリニックを受診するようなインフルエンザの患者が多数受診していて驚きでした。台湾では大きな病院を受診の際に紹介状が不要なため、多くの患者がクリニックではなく大きな病院を受診してしまうということで、患者教育が今後の課題だと感じました。

・国泰綜合醫院は、銀行や保険会社を所有する大きなグループが運営する病院で、病院内には多くの VIP ルームが見受けられました。

・昼食は無料でお弁当が貰えました。3 階に学生用の休憩室があり、そこで学生と昼食を食べ、午後の開始時間までは昼寝をして休憩をしていました。

・ロッカーは、病院の向かいの会社の中にあり、そこに荷物を置く形でした。



<支給されるお弁当>

【生活】

- ・病院は台北 101 の近くにあり、実習後買い物や観光に行くのに非常に便利でした。
- ・病院内は Wi-Fi があります。

全体を通して

・3 つの病院ともロッカーはありますが更衣室がなかったので、予備として持参したロングの白衣を着用しました。台湾の学生も白衣を着用しており更衣室はないので、KC ではなく白衣を持参したら役に立つと思います。病院内はエアコンが効いているので、長袖で大丈夫です。

・台湾の学生は英語で医学を学んでいますし、カルテも英語で書かれていますので、英語がわかれば言語で困ることほとんどないと思います。日常会話程度の英語はもちろん、医学英語もしっかり勉強していくとより充実した日々を送れると思います。

・雨季なので湿気が多く雨もよく降りました。折り畳み傘は必須だと思います。

・台湾の空港で4万円ほど換金しましたが、最終週に足らなくなり ATM で少し下しました。A街中にセブンイレブンなど ATM が多数あるので、現地でお金を下すのに使用できるカードがあると便利だと思います。

最後に

海外での臨床実習ということで、不安と期待を抱えて出発を致しましたが、3週間の滞在を経て本当に多くの期待以上のことを経験し学習することができました。今回の留学に際し、現地でサポートをして下さった台湾の先生方、学生、そして出発前から色々ご指導くださった佐賀大学の先生方に心より感謝を申し上げたいと思います。実習通して台湾の医療システム、保険制度などを知り、改めて日本や佐賀の医療体制を見つめ直す良い機会となりました。このように留学を通して学んだことを、1人の医師として今後の佐賀県の医療に役立てられるよう努力して参りたいと思います。

今回の輔仁カトリック大学への留学に際しお力添えをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。